令和７年度　全国学力・学習状況調査の結果について（速報）

義　務　教　育　課

１　調査の概要

（１）調査の目的

文部科学省は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てることや、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施している。

（２）調査の対象

①　小学校調査　小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年、特別支援学校小学部第６学年

②　中学校調査　中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年、中等教育学校前期課程第３学年、特別支援学校中学部第３学年

（３）調査事項

①　教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

【出題内容】

①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

【調査問題】

・上記①と②を一体的に問う。

・記述式の問題を一定割合で導入する。

※　中学校理科は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式で実施。

②　質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※　質問調査は、ICT 端末等を用いて実施。

（４）調査実施日

令和７年４月 17 日（木）

児童質問調査の実施日　令和７年４月 18 日（金）～４月 30 日（水）のうち１日（学校ごとに指定）

生徒質問調査、中学校理科の実施日　令和７年４月 14 日（月）～４月 17 日（木）のうち１日（学校ごとに指定）

（５）調査を実施した本県の県立及び市町立学校数、児童生徒数

	学校数	児童生徒数（国語）	児童生徒数（算数・数学）	児童生徒数（理科）	児童生徒数（質問調査）
小学校調査	149 校	7,441 人	7,443 人	7,433 人	7476 人
中学校調査	64 校	7,095 人	7,098 人	6,909 人	7067 人

（６）調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

「全国的な学力調査の今後の改善方策について」（平成 29 年３月 29 日）では、「平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を提供することとする。」とされており、平成 29 年度から都道府県別の平均正答率については、国から整数値で提供されている。

CBT で実施した「中学校理科」の調査結果については、公開問題の調査結果が公表されている。全員が共通の設問に解答したものでないため、従前の平均正答率ではなく、国より提供された IRT に基づく結果を示している。

２　今後の予定

（１）調査結果の分析

本年度の調査結果について、主に次のような分析を実施し、各学校や市町（学校組合）教育委員会において、それぞれの教育及び教育施策の改善に資することができるよう、分析結果を報告書に取りまとめ送付する。

・教科に関する調査の設問ごとの分析
・学術的な知見を踏まえた学力調査及び質問調査結果の分析　等

（２）分析結果の活用

調査結果の分析に基づき、児童生徒の学力向上に向けた授業改善等の取組を推進する。

・学力向上モデル校事業等を通して、学力の定着のための取組を推進
・「香川の教育づくり発表会」等の研修会を通したモデル校の実践等の普及
・各種研修会等において分析結果に基づく授業改善を促進
・「令和７年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた協議会」において、小・中学校理科の授業改善への支援

（３）「活用ツール」の配布

報告書に掲載した内容の設問や質問について、自校のデータを表やグラフに表示するツールを作成し、県教育委員会で分析した報告書の内容と学校データとを比較できるようにすることで、県内の小・中・特別支援学校が共通して分析を行えるよう支援する。

（４）各学校等における分析等への支援

調査結果を各学校の実態に応じて分析したり、授業改善の手立てを検討したりするために、各学校等の要請に応じて指導主事を派遣する。

３　教科に関する調査の結果概況

（１）全体的な状況について

【小学校調査】

小学校では、国語、算数、理科ともに、おおむね全国平均と同等である。

	国語			算数			理科		
調査年度	Ｒ５	Ｒ６	**Ｒ７**	Ｒ５	Ｒ６	**Ｒ７**	H30	Ｒ４	**Ｒ７**
県（公立） 平均正答率(%)	67	67	67	63	64	59	60	63	57
全国(公立) 平均正答率(%)	67 (67.2)	68 (67.7)	67 (66.8)	63 (62.5)	63 (63.4)	58 (58.0)	60 (60.3)	63 (63.3)	57 (57.1)
県と全国との差 (pt)	0	−1	0	0	+1	+1	0	0	0

【中学校調査】

中学校では、国語、数学、理科ともに、おおむね全国平均と同等である。

	国語			数学		
調査年度	Ｒ５	Ｒ６	**Ｒ７**	Ｒ５	Ｒ６	**Ｒ７**
県（公立） 平均正答率(%)	70	57	53	53	53	49
全国(公立) 平均正答率(%)	70 (69.8)	58 (58.1)	54 (54.3)	51 (51.0)	53 (52.5)	48 (48.3)
県と全国との差 (pt)	0	−1	−1	+2	0	+1

理科	生徒数	平均 IRT スコア
県（公立）	6,909 人	504
全国（公立）	864,634 人	503

※　本速報では、国立、私立を除いた公立小・中・特別支援学校の結果を掲載している。

（２）学習指導要領の領域等の状況について〔全国（公立）との比較〕

①　小学校

【国語】

分類		区分	平均正答率(%)		
			県（公立）平均正答率（%）	全国（公立）平均正答率（%）	県と全国との差（pt）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	76.9	-2.7
		(2) 情報の扱い方に関する事項	63.0	63.1	-0.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.3	81.2	-1.9
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	67.3	66.3	+1.0
		B　書くこと	71.0	69.5	+1.5
		C　読むこと	58.5	57.5	+1.0
評価の観点		知識・技能	72.7	74.5	-1.8
		思考・判断・表現	64.9	63.8	+1.1
問題形式		選択式	64.7	64.7	0.0
		短答式	76.5	78.5	-2.0
		記述式	63.9	58.8	+5.1

○　内容別に見ると「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国を上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で下回っている。

評価の観点別に見ると「知識・技能」では全国を下回っており、「思考・判断・表現」では上回っている。

（特に全国との差が大きかった問題）

・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題などで上回っている。〔問題２三〕（+6.0pt）

・「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題などで下回っている。〔問題２四イ〕（-4.6pt）

【算数】

分類	区分	平均正答率(%)		
		県（公立）平均正答率（%）	全国（公立）平均正答率（%）	県と全国との差（pt）
学習指導要領の領域	A　数と計算	61.5	62.3	-0.8
	B　図形	60.1	56.2	+3.9
	C　測定	57.0	54.8	+2.2
	C　変化と関係	56.7	57.5	-0.8
	D　データの活用	64.6	62.6	+2.0
評価の観点	知識・技能	66.1	65.5	+0.6
	思考・判断・表現	50.2	48.3	+1.9
問題形式	選択式	67.7	67.2	+0.5
	短答式	63.7	64.0	-0.3
	記述式	39.4	34.9	+4.5

○　領域別に見ると「図形」「測定」「データの活用」で全国を上回り、「数と計算」「変化と関係」で下回っている。

評価の観点別に見ると「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに上回っている。

（特に全国との差が大きかった問題）

・「図形」において、台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題などで上回っている。〔問題２（２）〕（+9.1pt）

・「数と計算」において、数直線上で、１の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題などで下回っている。〔問題３（３）〕（-4.4pt）

【理科】

分類		区分	平均正答率(%)		
			県（公立）平均正答率（%）	全国（公立）平均正答率（%）	県と全国との差（pt）
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	45.8	46.7	-0.9
		「粒子」を柱とする領域	52.3	51.4	+0.9
	B区分	「生命」を柱とする領域	52.0	52.0	+0.0
		「地球」を柱とする領域	66.9	66.7	+0.2
評価の観点		知識・技能	55.2	55.3	-0.1
		思考・判断・表現	59.2	58.7	+0.5
問題形式		選択式	54.8	54.7	+0.1
		短答式	69.6	69.7	-0.1
		記述式	46.8	45.2	+1.6

○　領域別に見ると「『粒子』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」で全国を上回り、「『生命』を柱とする領域」は同等、「『エネルギー』を柱とする領域」で下回っている。

評価の観点別に見ると「知識・技能」は、全国を下回っており、「思考・判断・表現」は上回っている。

（特に全国との差が大きかった問題）

・「『地球』を柱とする領域」において、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題などで上回っている。〔問題１（２）〕（+3.9pt）

・「『エネルギー』を柱とする領域」において、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題で下回っている。〔問題２（４）〕（-4.0pt）

② 中学校

【国語】

分類		区分	平均正答率(%)		
			県（公立）平均正答率（%）	全国（公立）平均正答率（%）	県と全国との差（pt）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	47.4	48.1	−0.7
		(2) 情報の扱い方に関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	51.8	53.2	−1.4
		B 書くこと	52.6	52.8	−0.2
		C 読むこと	59.9	62.3	−2.4
評価の観点		知識・技能	47.4	48.1	−0.7
		思考・判断・表現	54.1	55.3	−1.2
問題形式		選択式	62.2	63.9	−1.7
		短答式	73.9	73.6	+0.3
		記述式	24.8	25.3	−0.5

○ 内容別に見ると「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国を下回っている。

評価の観点別に見ると「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに下回っている。

（特に全国との差が大きかった問題）

・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題で上回っている。〔問題４一〕（+3.1pt）

・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる問題で下回っている。

〔問題２三〕（-4.4pt）

【数学】

分類	区分	平均正答率(%)		
		県（公立）平均正答率（%）	全国（公立）平均正答率（%）	県と全国との差（pt）
学習指導要領の領域	A 数と式	43.2	43.5	−0.3
	B 図形	47.8	46.5	+1.3
	C 関数	48.7	48.2	+0.5
	D データの活用	59.0	58.6	+0.4
評価の観点	知識・技能	55.0	54.4	+0.6
	思考・判断・表現	39.2	39.1	+0.1
問題形式	選択式	53.4	54.0	−0.6
	短答式	53.1	52.0	+1.1
	記述式	39.7	39.6	+0.1

○ 領域別に見ると「図形」「関数」「データの活用」で上回り、「数と式」で全国を下回っている。

評価の観点別に見ると「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに上回っている。

（特に全国との差が大きかった問題）

・「図形」においては、多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題などで上回っている。〔問題３〕（+5.6pt）

・「数と式」において、事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる問題などで下回っている。〔問題６（１）〕（-3.9pt）

【理科】

※全日程に共通する「問題１」の正答率等

問題番号	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	県（公立）平均正答率（%）	全国（公立）平均正答率（%）	県と全国との差（pt）	問題の難易度
１（１）	○				51.7	51.9	-0.2	5
１（２）		○			50.2	46.2	+4.0	5
１（３）				○	36.0	36.2	-0.2	5
１（４）			○		33.9	29.7	+4.2	5
１（５）		○			42.8	44.9	-2.1	4
１（６）		○			80.1	79.4	+0.7	3

（公開されている問題の中で、特に全国との差が大きかった問題）

・「『生命』を柱とする領域」において、水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題で上回っている。〔問題１（４）〕（+4.2pt）

・「『生命』を柱とする領域」において、スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題で下回っている。〔問題６（１）〕（-4.9pt）

（３）無解答率について

中学校では、主に、資料等から読み取ったことを基に、自分の考えをつくって記述するといった問題において無解答率が全国を上回る問題が多かった。根拠を明確にして自分の考えをつくったり、分かりやすく伝わるように表現を工夫したりする力をつけていく必要がある。

無解答率が全国平均を上回った問題数

小学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国　語	14	0
算　数	16	0
理　科	17	0

中学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国　語	14	11
数　学	15	10
理　科	22※	11

※公開問題（合計 22 問）

※参考（国語、算数・数学…Ｒ６年度、理科…Ｒ４年度）

小学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国　語	14	0
算　数	16	0
理　科	17	1

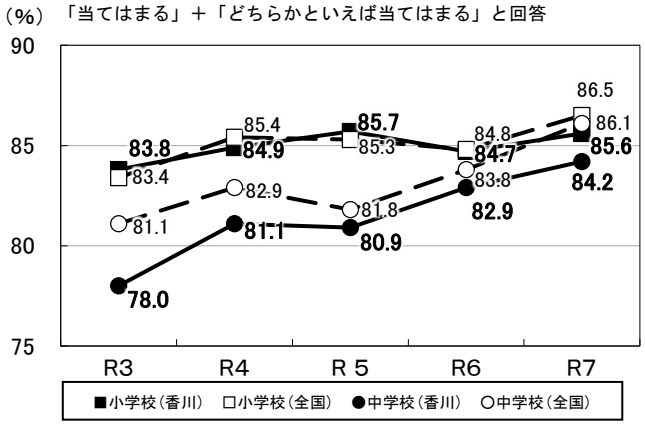
中学校	調査問題数（問）	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）
国　語	15	11
数　学	16	13
理　科	21	5

４　質問調査（児童生徒に対する調査）の結果概況

（１）学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全国と同様におおむね増加傾向にある。

□12　学校に行くのは楽しいと思いますか

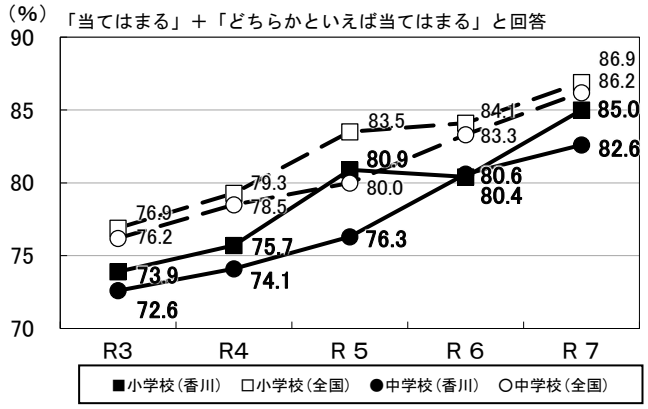


（２）自己有用感や規範意識等について

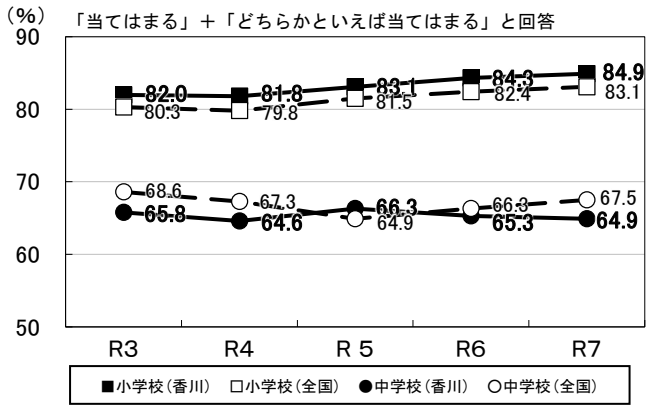
自己有用感に関わる「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国と同様に増加傾向にある。

規範意識に関わる「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同程度の割合を維持している。

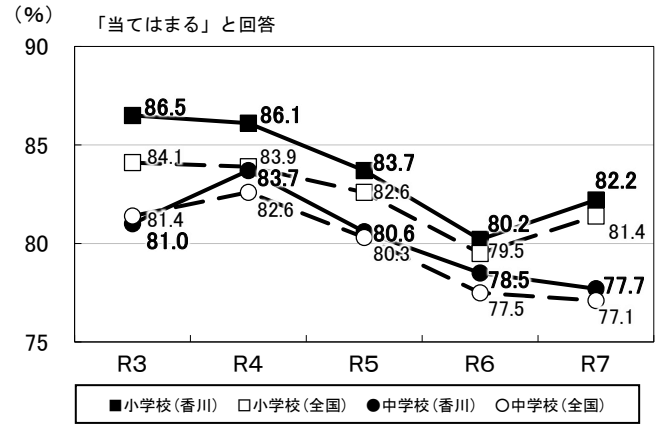
□５　自分には、よいところがあると思いますか



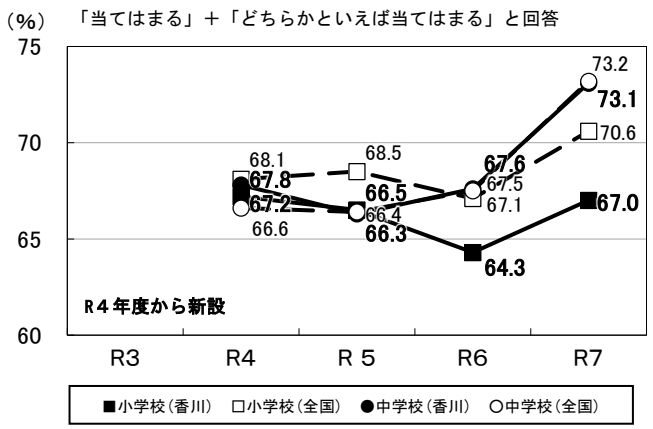
□７　将来の夢や目標を持っていますか



□９　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



□10　困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

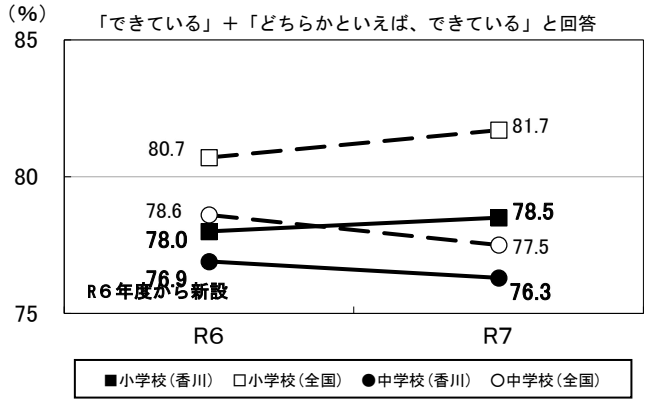


（３）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について

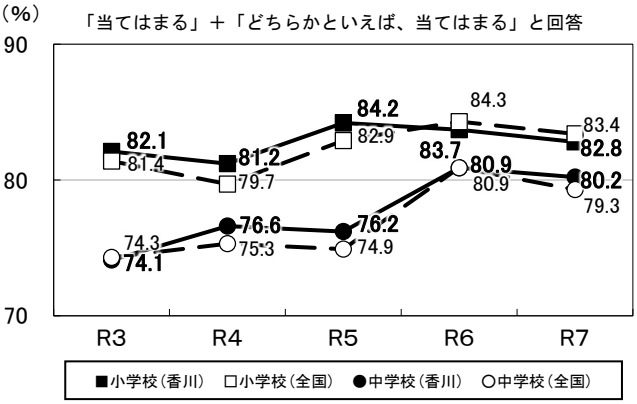
「５年生まで（１，２年生のとき）の授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同様となっている。

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均と同等で約９割を示している。

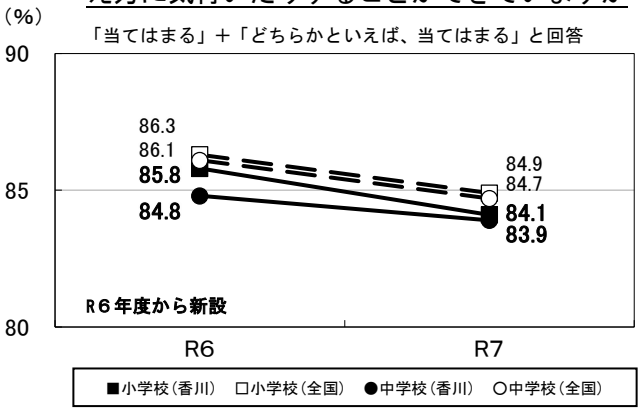
□16　分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



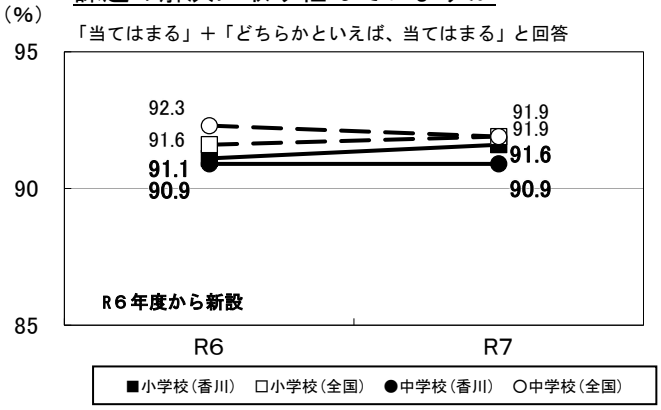
□34　５年生まで（１，２年生のとき）の授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



□35　学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

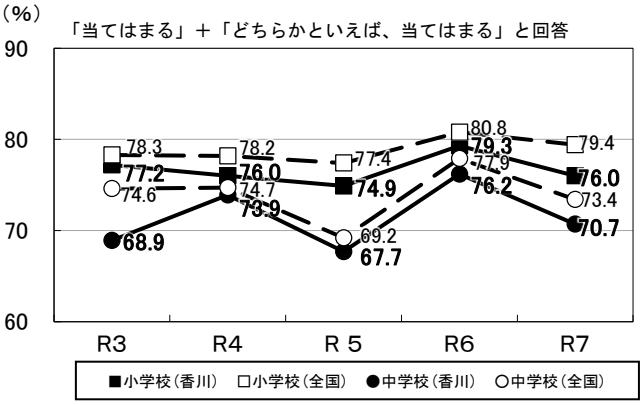


□39　授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均より低い割合で推移している。

□36　学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

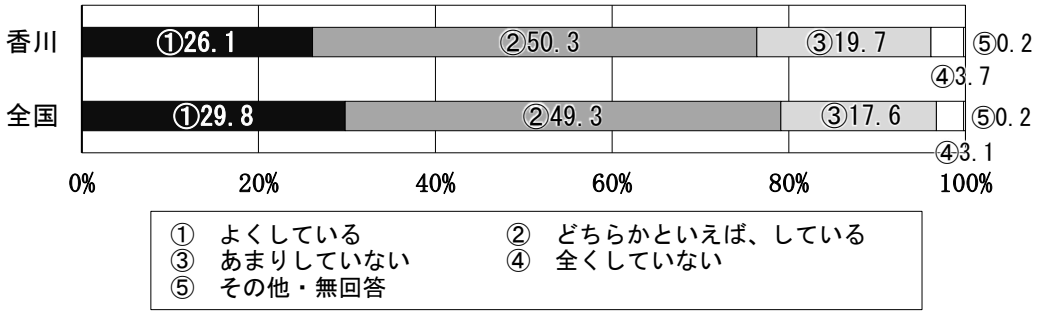


（４）読解力について

小学校国語において、「授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は 76.4%である。
中学校数学において、「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができていますか」の質問に、肯定的に回答した生徒の割合は、62.4%にとどまっている。
小学校理科において、「授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は 85.7%である。

（小学校のみ）

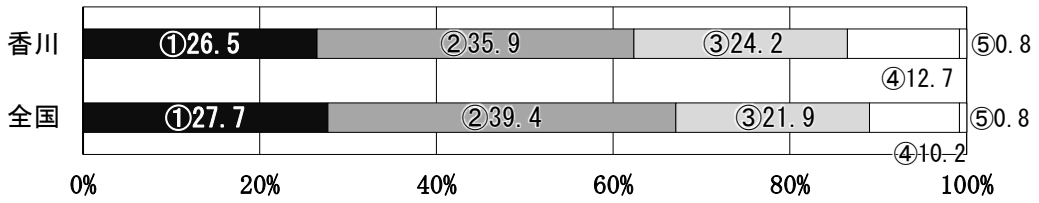
□51/＊ 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか



① よくしている　② どちらかといえば、している
③ あまりしていない　④ 全くしていない
⑤ その他・無回答

（中学校のみ）

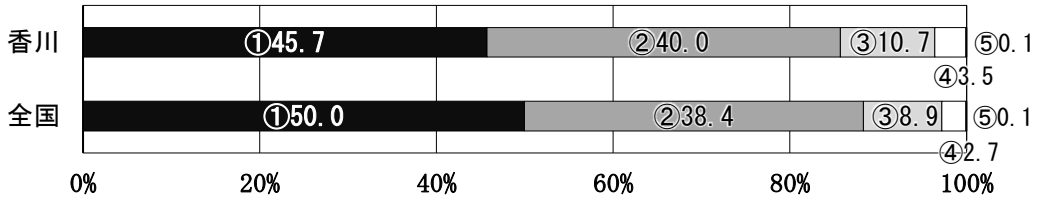
□*/59 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができていますか



① 当てはまる　② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない　④ 当てはまらない
⑤ その他・無回答

（小学校のみ）

□69/＊ 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



① 当てはまる　② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない　④ 当てはまらない
⑤ その他・無回答

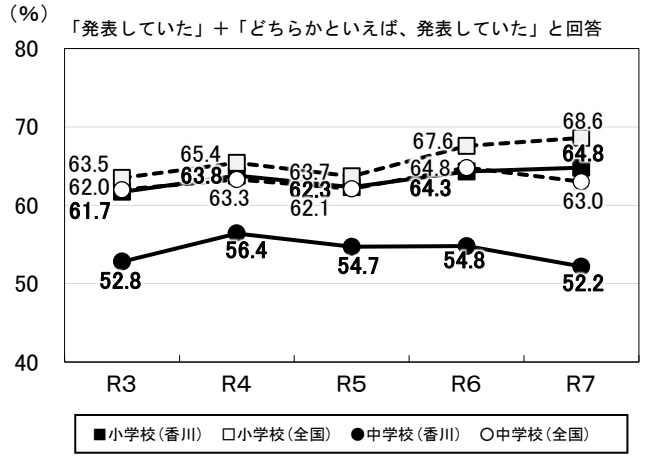
（５）学習意欲について

「５年生まで（１，２年生のとき）の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均より低い割合で推移している。

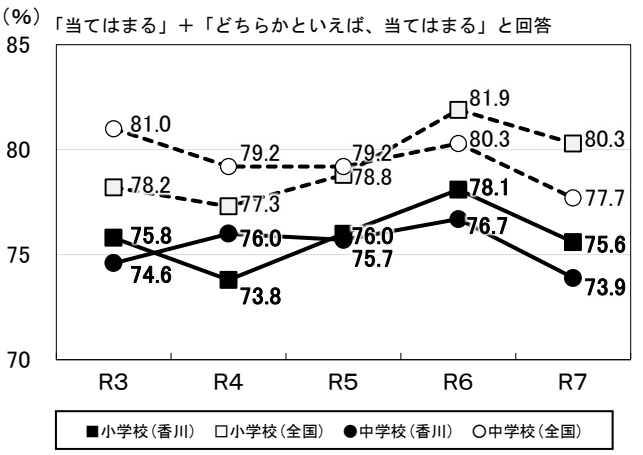
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国と同様の推移を示している。

普段（月曜日から金曜日）、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、「１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国と同様に減少傾向が見られる。

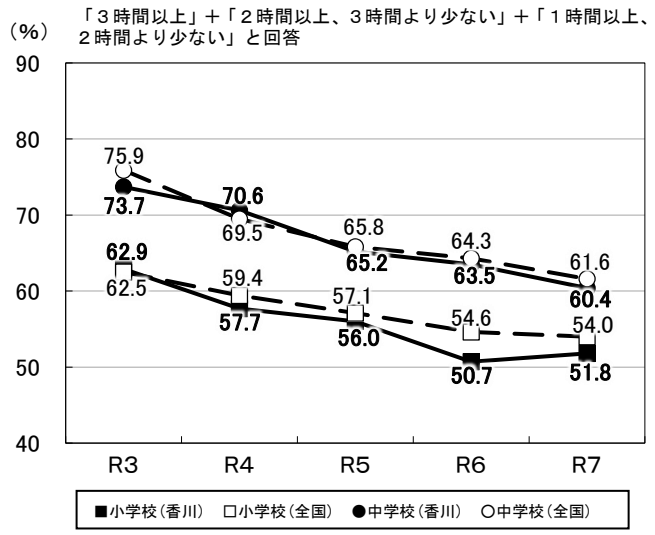
□31　５年生まで（１，２年生のとき）の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか



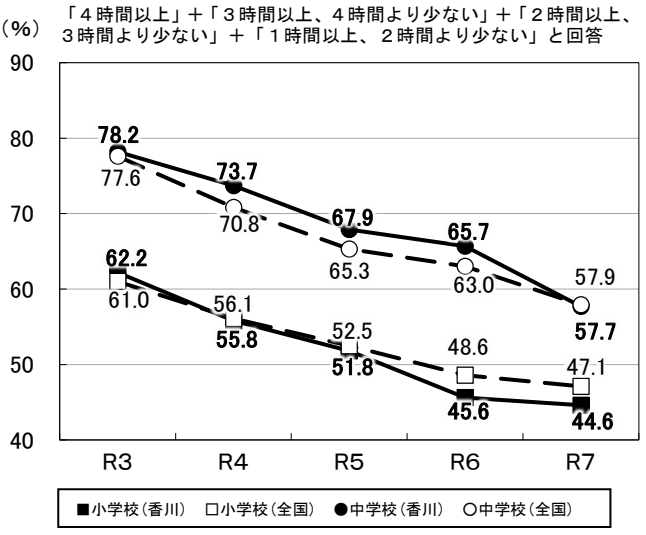
□32　５年生まで（１，２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



□17　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

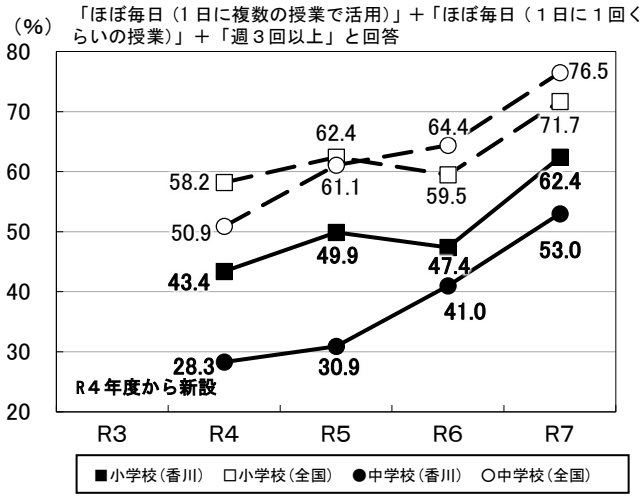
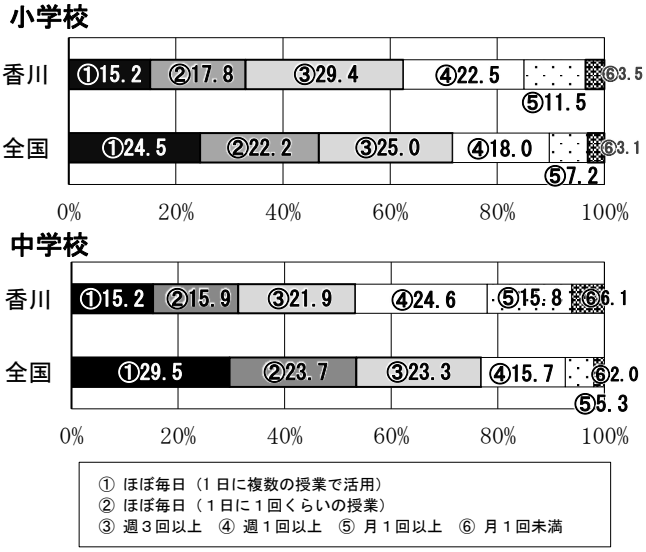
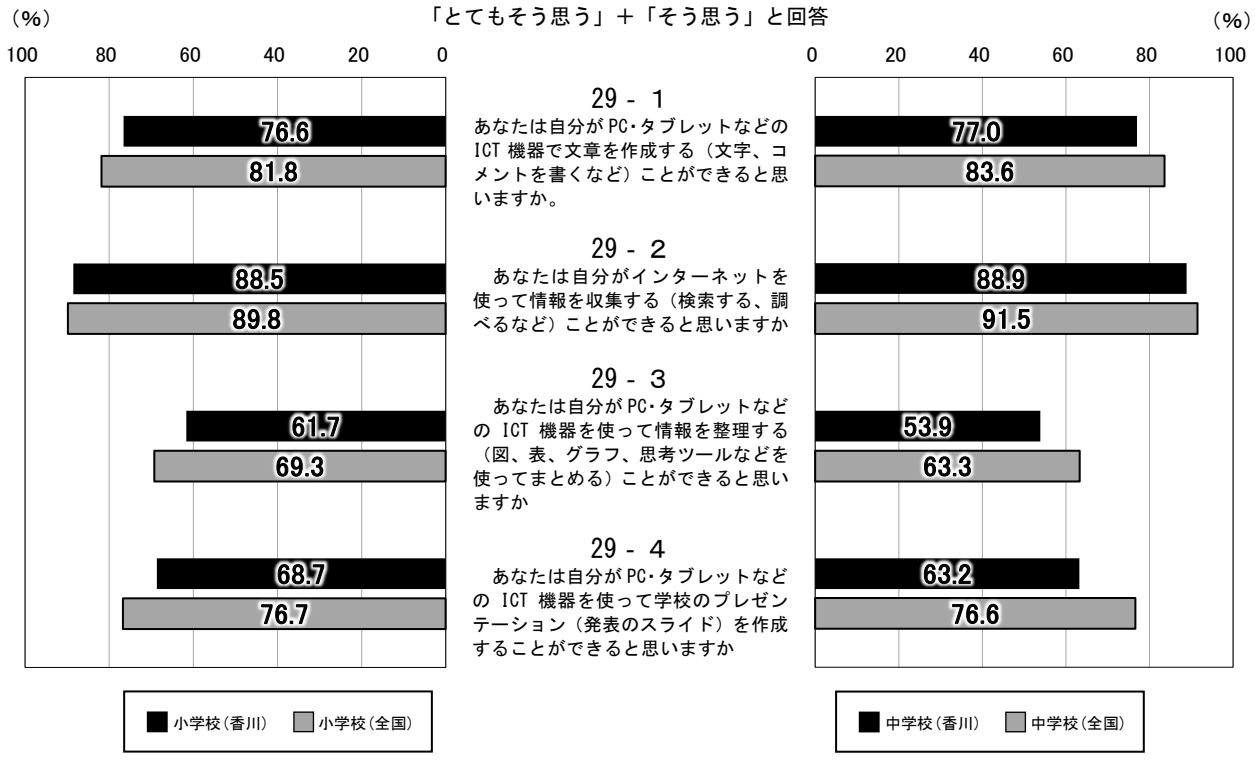


□19　土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



（６）ICT を活用した学習状況について

昨年度までに受けた授業における ICT 機器の使用頻度についての質問に、「ほぼ毎日」「週３回以上」と回答した児童生徒の割合は、増加傾向が見られているが、小・中学校ともに全国平均より低い割合で推移している。

29－１、３、４、ICT 機器で文章を作成したり、情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりするなど、情報活用能力についての質問に、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を大きく下回っている。

□28 ５年生まで（１，２年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか